

令和4年度 国立中央青少年交流の家 教育事業
「生活自立支援事業」

富士のさと 親子で遊び隊

令和5年2月4日（土）～2月5日（日） 1泊2日



○目的

ひとり親家族の子ども達が、普段体験できない活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通して、規則正しい生活習慣の大切さと自分の思いや考えを伝えることの良さを感じる機会とする。また、ひとり親の悩みを同じ境遇の親同士で共有することで、子育てへの前向きな気持ちを高め、子どもとの交流を通して親子の絆を深める。

○参加者

12家族 37名（大人男性2名、女性9名）

○本事業の特徴

普段体験できない活動を通して、親子で協力したり、触れ合ったりする良さを感じ、絆を深める。子育てへの前向きな気持ちを高めるため、親と子供に分かれて活動する時間を設定した。親については座談会形式で普段の生活や子育てへの不安や悩み等を共有し合う。また、親に対する感謝の気持ちを伝えるために、子供達はお弁当作りに取り組む。

○事業内容（参加者の様子）

家族で協力しながら時間を守り、次の活動を意識しながら行動していた。親子で触れ合う場面も多く見られ、子供のみならず、親も一つ一つの活動を楽しんでいたようである。また、自然と家族間の交流も生まれ、子育てに関する情報を共有し、お互いを励まし合う場面も見ることができ、とても温かい雰囲気の中で事業を行うことができた。

【事業1日目】2月4日（土）

（1） はじまりの会（アイスブレイク）

手遊び歌をはじめ、どっち派ゲームなど4つの活動を通して、緊張をほぐし、親子での触れ合いを楽しんだ。



（2） 親子で協力！ミッションオリエンテーリング

親子で助け合いながら施設の写真の場所を探し、3カ所に設置されたミッションをクリアしようと家族みんなで一生懸命取り組む姿が見られた。



（3） フォトスタンドづくり

子供だけでなく、親もフォトスタンド作りや丸木のマグネット作りに熱心に取り組んだ。



（4） ブレイクタイム（親）、自由遊び、読み聞かせ（子供）

親と子供に分かれて活動した。子供は体育館で体を動かしたり、えほんのへや「ふらら」で読書を楽しんだりした。親は、座談会形式で普段の生活や子育ての不安や悩みを共有し、お互いを励まし合うなど、交流を深めた。

【事業2日目】2月5日（日）

（1）お弁当作り

お母さんやお父さんに日ごろの感謝を伝えようと、お弁当作りに挑んだ。初めて料理をする子供もいたが、お母さんやお父さんの喜ぶ顔を思い浮かべながら、決められた時間の中で作り上げた。



（2）そり・雪遊び（スノーパークイエティにて）

親子でそり遊びをしたり、雪玉を作って雪玉ころがしゲームをしたりして、親子の触れ合いを楽しんだ。また、昼食時には、子供が作ったお弁当を家族みんなで食べた。



《参加者の声》 ※事後アンケートより

- 子供にとって、雪遊びや子供同士で遊んだことが初めてのことで、本当に楽しい経験ができた。母一人なので、雪山まで行くこともできないし、親子でこんな素晴らしい機会を作ってくれてありがたい。また、春や夏にかけてのイベントもあればぜひ参加したい。
- 子供だけにいろいろさせることはあっても、親自身は後回しにしがちなので、親もフォトスタンドを作れてうれしかった。
- 座談会をしましたが、子供同士、親同士の時間はとても有意義だった。
- 子供と参加してかなりいい経験や刺激を得られ良かったと思う。また、スタッフさんの子供の面倒見がよかったので、安心できる部分は感心した。
- 子供の手作りのお弁当にとっても感動した。

《アンケート結果の考察》

- 座談会形式のブレイクタイム（語ろう会）は、ひとり親が抱える不安や悩みを和らげる場として効果的であったと考える。
- ミッションオリエンテーリングやそり・雪遊びのように親子で取り組む活動も大事だが、日ごろ子供を優先して生活している親のことを考えると、フォトスタンド作りのような親も楽しめるプログラムを取り入れることも大事であると感じる。
- 子供達で作ったお弁当は好評で、親子の関係を深めるためには良い活動であったと考える。

《成果と課題》

- 日ごろ親の言うことを聞かず、自己主張の強い子供達も、周りの様子に気を配りながら家族みんなで行動していた。また、他の家族との集団宿泊生活を通して、時間や次の活動を意識しながら自分から進んで行動する姿が多く見られ、本事業は子供達の自主性を向上させるきっかけになった。
- 1日目のブレイクタイムや2日目のお弁当作りのように、子供と親が分かれて活動する時間を設けることは親の気持ちをリフレッシュさせるとともに、親子関係を深めるために効果的であった。
- 親子で安心して事業に参加していただくためにも、子供の実態に応じた支援の仕方について、事前の情報収集とともに知識や技能を身に付けていくなど、対策をしていく必要がある。
- ひとり親が抱える不安や悩みを和らげ、解消できるようなアドバイスをしたり資料を提示したりするには、今後、各関係機関と連携を図っていく必要がある。